

平成28年度 園評価・自己評価結果公表シート

若桜町立 わかさこども園

園評価の結果について、以下の通り報告します。（自己評価・関係者評価も含む内容とする）

1. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
教育・保育内容全般について (目指す子ども像)	<ul style="list-style-type: none">・研究テーマに添って、子どもたちが主体的に心が動く体験を通して、試行錯誤をしながら活動できるように年間計画の見直し及び作成をした。・今年度も挨拶については子ども達が意識をしてできるような取り組みとして「あいさつのおやくそく」①立ち止まって②相手の顔を見て③元気よくを合言葉に全職員が声掛けを行った。強調月間では、年長児が「あいさつ隊」としてあいさつ運動に参加することで意識付けになった。・今年度も体力向上の取り組みとして、八幡広場での「八幡タイム」毎日のマラソンや体操、ぞうきんがけを実施、継続することで力がついた。また、外部講師による運動遊び教室では発達段階に即して多様な動きを行うことで身体能力が高まると共に体を動かすことが好きな子が増えた。・食育を通しての活動では、年間を通しての菜園活動で育てた収穫物などを調理することで食べる意欲につながった。ただ、今年度はクッキング活動があまりできなかった。・喧嘩の場面での子どもの自立性やプライドを尊重していく援助に心がけた。また、規範意識の芽生え、社会のルールが身に付くように働きかけた。
教育、保育環境について	<ul style="list-style-type: none">・「若桜の自然を楽しもう」として、探検隊活動を年間取り入れていった。子ども達の興味・関心の幅が広がったように感じた。・保育者も大きな環境であるということを日々意識し、子どもに関わるように努めた。一人一人をしっかりと見るように心がけ、温かなやり取りやスキンシップに心がけた。また、体調の様子にも日々注意し適切に対応できた。・保育環境をどう整えるかという面でたえず意識して保育を展開していった。適切な保育環境を整えることで保育者の意図の中での子どもの主体的な姿が育っていったと感じている。
教職員の専門性に関する研修・研究への意欲・態度全般について	<ul style="list-style-type: none">・研究大会に向けて、研究の内容について職員間での共通認識を行い、指導計画を作成し、PDCAサイクルを取り入れ、保育の展開を検証していくことの大切さを感じた。園の取り組みについて幅広く関心を持っていただけた。・講師先生のご指導や県教委、子育て応援課の先生方の指導をいただきながら、絶えず、自分たちの保育の振り返りを行い、創意工夫し進めていくことができた。

<p>地域・保護者・学園との連携について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と送迎時にできるだけ保護者に子どもの様子や育ちの一場面を伝え、成長と共に確認したり、喜び合えるように努めた。 ・保護者に研修や子どもの様子（保育参観）を見ていただく中で、個々の子どもの育ちや育てたい姿の共通理解を図るように配慮した。 ・園便り、クラス便り等のお便りを定期的に発行し、園での様子を伝えた。また、地域版のこども園だよりは地域の方から園の様子がよくわかると好評である。 ・あらかじめ年間行事の日時を知らせ、保護者が園行事に参加しやすいように配慮したためか参加率がよかった。 ・学園との連携では、一貫協議会の連携推進部会での連携や学園の先生による保育体験事業等も行い、共通理解を図る機会を多く持った。 ・子育て支援センター「遊びば」もでき、施設や内容の充実に今まで以上に努め、子育て家庭が参加しやすいような環境を整えた。
--------------------------	---

2、今後に向けて

評価項目	具体的な取組状況
<p>教育・保育のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントをどう構築していくのか検討が必要となる。保育者自身が見通しを持ちながら、環境を構成していくことの大切さを痛感している。その為には日頃から子どもの生活の流れや興味や欲求を十分に理解し、何を育てたいのか、何が育つのかを明確にし、PDCAサイクルの中での検討を今後も進めていく必要がある。 ・育ち（発達）の連続性を意識した指導や援助のあり方を職員間でしっかり検討し確立していく。
<p>職員の専門性向上に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修ではエピソード記録等の実践事例をもとに幼児理解を深め、環境構成や保育者の援助についても検証し、子どもたちの育ちが確かなものになるようにPDCAのサイクルを使った、評価や考察をしていく。 ・今後もクラス別研究保育や公開保育を通して、外部講師の指導助言を受ける機会を多く持つ。 ・専門性向上のための研修会に自主的、意欲的に参加をし、個々が資質の向上に努める。
<p>保護者・地域・学園との連携について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通しての子どもの学びの姿をダイジェストに保護者に伝えていくようドキュメンテーションを取り入れるように心掛ける。 ・地域に園の情報を発信し、積極的に園への協力者を求める。また、地域交流の輪を広げ、地域の中の子ども園として役割を果たす。今後も保護者との連携を密にとり、共に子どもの育ちを支えていけるようにする。 ・園としても、親の要望ばかりに耳を傾けるのではなく「子育てはこうあるべきだよ」ということを伝えていき、保護者の子育て力もつけることが必要である。

3、こども園関係者評価委員の評価

評価項目	評価及びご意見
教育・保育内容全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが日々笑顔で通えているので、とてもよいと思う。若桜という地域性を生かして、のびのびと成長しているのでよいと思う。 ・研究発表大会へ向けての取組を柱として、めざす子ども像に向けて職員が一つになって取り組んでいる姿が見られたと思います。 ・園の環境を生かし、子どもの自分で考える力と探究心が育つような取り組みがされている。 ・運動遊び、戸外遊びが四季を通じてなされている。食育も長年に渡り取り組まれている。ゲストティーチャーとも様々な交流があった。また、職員の研修機会も頻繁にあり良い。 ・目標に向かってしっかりと計画的に取り組まれている。 ・行事にするたび、子どもたちの一生懸命な姿を見ると、練習の過程での取り組みに子どもたちの成長が伺える。
子どもについて	<ul style="list-style-type: none"> ・発表会等の様子を見ると落ち着いて生き生きとした姿で過ごせていると思う。 ・全部の子どもは把握できていないが、会う子どもたちは元気で表情豊かだと思う。登園時、保護者より先に園に行こうとしている子どもたちを見るので、子どもにとって園は楽しい場所になっていると思う。 ・いつも楽しく登園していて、親の知らない間に、園での生活の中ですごく成長しているように感じる。こども園に行くのを嫌がらずに喜んで登園できることが一番だと思う。 ・生活習慣に課題が残ったが、「あいさつ運動」の朝など、笑顔で友だちと声をそろえて自分から元気よく挨拶をする姿が見られた。 ・生活発表会では、とても自然に楽しんでのびのびと発表出来ていた。 ・生活発表会から確かな成長が感じられる子どもたちが多かった。明るく元気よく生活できている。 ・保護者のアンケートでも高い評価であった。
教職員について	<ul style="list-style-type: none"> ・園児数が増え、保育教諭の確保が大変であると思う。 ・子どもの成長をめざし、一致協力して子どもの保育にあたっておられるのがよくわかる。 ・子どもたちがその子なりの感情や考えが表現できるもの、先生方に受け止めてもらえる安心感があるものと感じた。先生方は、子どものペースを大切にしてい一方的働きかけにならないような配慮がある。 ・人数が少ないのもあり、一人一人の子どもにより接する回数が増えていると感じる。また、担任にかかわらずよく見てくれていると思う。 ・子どもの個性に寄り添って、教育・保育をしてもらっていると思う。子どもが先生を「好き」というのが、先生が誠意をもって対応してくださっている証だと思う。 ・日々の取組に対する熱意が伝わってきた。

<p>地域・保護者との連携について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携は、保護者会を中心としてできている。 ・地域の方が日常的に関わられているか見えにくい感じがする。 ・地域の行事に参加したり、「こども園だより」の回覧で、子どものいない地域の方にも情報発信ができています。 ・地域というか、保護者の関係は良いのではないかと思います。 ・保護者会は役員を中心に保護者が一丸となって行事に関わるという姿勢になるとよいと思う。 ・こども園便り、園だよりや各行事、参観日、保護者会、懇談会などを通して、教育方針や活動内容に理解が伝わっていて、保護者アンケートでも保育内容について99%の方がよい評価をしている。 ・交流行事や活動を有効に取り入れ、保護者からも十分理解をされ、協力を得ている。 ・毎月のように、地域の方や若桜学園の児童、保護者等との交流が色々企画されており、園便り等でその内容を楽しく伝わってくる。
<p>★その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団生活の中で、いろいろな機会を与え、個性を見出し、伸ばすことは大変なことですが、大事なことと感じている。 ・職員は現状の中で大変熱心に対応していただいているが、園児数に対しての施設の広さや職員の定数に少し無理を感じる。新しく若桜町に定住を考える方もおられる中で、いつでも受け入れができるように余裕をもった運営が必要に思う。 ・保護者間の交流が固定した人間関係だけでなく、子どもが異年齢でも交流の機会ができるとよいと思う。「子育ての悩み」の解消のヒントになるような小グループでの話し合いのような機会があると、認識が共有できるようになりやすいのではと感じた。 ・子どもがいるから親ではなく、子どもの成長と共に親も成長していくと感じている。未熟な親世代に相談できる先生がいてくれることで気持ちが楽になると思う。今後も園児数、保護者数も増え、いろいろな意見があり大変だと思いますが頑張ってもらいたい。 	

平成29年3月30日

若桜町立 わかさこども園

園長 矢部 紀子